

議事録 会議名 朋有小学校・西巣鴨中学校校舎一体型小中連携校および総合体育場の整備等を考える会				
議題	1	本日の議題と進め方		
	2	3校合同子どもワークショップの実施報告		
	3	小中連携教育について		
	4	池袋中学校ブロックの現状と課題		
	5	西巣鴨中学校ブロックの現状と今後の展望		
	6	今後の取組に関する意見交換		
日時	令和7年9月4日(木) 18:30~20:00			
場所	西巣鴨中学校 体育館			
出席者数	代田会長(朋有小学校PTA会長)、他委員18名 事務局(学校施設課)4名 指導課2名 僕聴人1名 支援事業者:9名			
会議内容(要旨)				
<会の概要> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本日の議題と進め方 <ul style="list-style-type: none"> 本日の第2回検討部会では、子どもワークショップの開催報告、小中連携教育、池袋中学校ブロックの成果と課題、西巣鴨中学校ブロックの実績と今後の展望を扱い、今後の取組に関する意見交換を行う。 次回の第3回検討部会では、具体的な施設配置案や、本日出された意見をもとに地域連携のあり方について、具体的な内容を議論する。 2. 3校合同子どもワークショップの実施報告 <ul style="list-style-type: none"> 巣鴨小学校、朋有小学校、西巣鴨中学校の子どもたちが各学校の総合学習・放課後の時間を使って、学校の好きなところや「あったらいいな」と思うところ、小学生と中学生が一緒に校舎になったらしてみたいこと、スポーツ施設と一緒にになったらしてみたいことなどを話し合った。 夏休み中に、3校の代表児童・生徒が合同で「未来の学校」について議論した。 <p>(児童・生徒からの発表内容) ※一部抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> 空調設備の設置、エレベーター設置 交流できる空間の設置 木材の使用 体育館と特別教室を控え室にする 休憩できる場所が欲しい 				

(PTA 会長感想)

○代田部会長

- ・子どもたちの素晴らしい意見が活発に出た部会であった。学校で多くの時間を過ごす子どもたちの声（既存施設の満足度点、新しい施設への要望）を汲み取り、今後の施設づくりに活かしたい。

○原口副部会長

- ・子どもたちから非常に期待感のある意見が多く出たことに感動した。例えば、「多国籍の給食を食べる」「その国の匂いがする部屋を作る」といった、人種や文化、障害の有無に関わらず、誰もが過ごしやすいフラットな場所を求める意見が出た。
- ・実現可能なこととそうでないことがあるが、「できない」を前提にするのではなく、「どうやったらできるのか」という視点で選択肢を増やしていくことが重要であると強調しました。子どもたちが 10 年後に笑顔で過ごせる学校を作るために、参加者全員で協力していきたい。

3. 小中連携教育について

○豊島区の現状と課題

- ・全国的に学校の数が減少し続けており、豊島区でも子どもの減少が喫緊の課題である。
- ・特に中学校 1 年生（中 1 ギャップ）が課題であり、学習環境や生活スタイルの変化により、中学校生活に馴染めない子どもが見られることが原因と考えられる。
- ・区立中学校への進学率が伸び悩んでおり、例年約 6 割前後で推移している。令和 5 年度には、区立中学校等の授業料軽減助成が始まったことが一因で、進学率が若干下がったと分析されている。
- ・区立中学校の魅力が十分に伝わっていないことも進学率伸び悩みの原因と考えられている。

○小中連携教育の方針

- ・方針 1：小中 9 年間を通した学習指導・生活指導を確立し、進学への安心感と希望を持てるようにする
 - 小学校から中学校への移行期に、共通できる学習指導・生活指導を行うことで、子どもたちが安心して学校生活を送れるようにする。
 - 児童・生徒間の交流（先輩との交流、小学校同士の交流）を通じて、中学校への期待感を醸成する。
- ・方針 2：小中 9 年間を通して子どもの成長をきめ細やかに支援し、魅力ある学校づくりを進める
 - 小学校と中学校の先生が 9 年間を通して子どもに関わることで、小学校の先生は中学校進学後も子どもたちを気遣い、中学校の先生は小学校時代から子どもの顔を知ることで、子どもたちが安心できる環境を作る。

○期待される効果

- ・小学生は進学先の学校を知ることで不安が解消され、希望を持つことができる。
- ・中学生は先輩として学校を紹介したり活動したりすることで、自己有用感や責任感を育むことができる。
- ・小中学校それぞれの先生が子どもたちを見守ることで安心感に繋がる。
- ・地域全体で子どもたちを育てる環境が形成される。

4. 池袋中学校ブロックの現状と課題

○池袋中学校ブロックの現状

- ・子どもたちの意識：小学生は年上の先輩との活動を「楽しい」と感じ、中学生は小学生との活動に「意義」を感じている。
- ・先生方の意識：池袋本町小学校と池袋中学校が校舎一体型であるものの、離れている池袋第一小学校も意識した連携イベントを行っている。
→イベントの実施により、先生方の認識も変化してきている。
- ・地域との連携：地域住民がイベントに参加したり、あいさつ運動や清掃活動に協力したり、地域主体のイベントに学校が参加したりすることで、「地域で子どもを育てている」という意識が生まれている。

○具体的な連携内容

- ・情報共有：池袋本町小学校と中学校で行う連携については、必ず池袋第一小学校にも共有し、連携の機会を設けている。
- ・施設面：池袋本町小学校と池袋中学校は、3・4階で小中学校部分が繋がっており、日常的に児童・生徒がお互いの姿を見ることができる。また、2階の職員室は小中学校で共有されており、先生方の意識の変化に繋がっている。
- ・イベント：
 - ①運動会や地域防災イベント（オンラインで各校の防災施設を確認）など、対面およびオンラインで多様な交流活動を実施している。
 - ②池袋本町小学校の作品展を池袋第一小学校に展示することで、活動を知る機会を設けている。
 - ③年間各校1回公開授業を実施し、池袋本町小学校・池袋中学校の先生が参加して助言や意見交換を行っている。また、各校で職員研修も実施している。
 - ④中学進学時に学力レベルが落ち込まないよう、ICT活用能力の共有と平準化に取り組んでいる（今年度からの取り組み）。
 - ⑤その他に、池袋第一小学校には広い空間があり、連携時にいつでも受け入れができるという声も上がっている。

5. 西巣鴨中学校ブロックの現状と今後の展望

- ・西巣鴨中学校ブロックでは、すでに挨拶運動や朋有小学校と巣鴨小学校合同宿泊行事を行っている。

○西巣鴨中学校、巣鴨小学校、朋有小学校の校長先生より現状と今後について説明
(西巣鴨中学校)

①西巣鴨中学校が目指す生徒の姿

西巣鴨中学校では、変化の激しい世の中を生き抜く力と、多様なコミュニケーション能力を身につけた子どもを育てていきたいと考えている。この地域の生徒は、大人に対して素直な子どもが多いと感じており、これは小学校時代から多様な場面で交流の機会を持って育っているからだと分析している。朋有小学校と巣鴨小学校の子どもたちが、安心して西巣鴨中学校に通学できるよう、小中連携の強みを活かしていきたいと考えている。

②具体的な連携活動

西巣鴨中学校を知る会

2つの小学校の6年生が西巣鴨中学校に集まり、生徒会による中学校生活の紹介や、体育・家庭科・英語・社会など様々な授業を体験する会。

バラロードの清掃

都電荒川線沿線のバラロードの清掃を地域と協力のうえ行う。当初は3校合同で行っていたが、今年度は、西巣鴨中学校と巣鴨小学校、西巣鴨中学校と朋有小学校の2回に分けて実施する。

あいさつ運動

朋有小学校や巣鴨小学校のあいさつ運動に、中学生が参加している。

教員間の連携

3校合同研修を実施しており、各教科や生活・指導に関する情報交換を行っている。不登校支援の担当者も参加し、子どもたちの状況変化を共有したり、小学校の先生に中学校の様子を伝えたりしている。

水鉄砲大会（PTA主催）

夏にPTA主催で行われる水鉄砲大会は、小学校1年生から中学校3年生までが参加し、学年ごとにチームを組んで実施される。中学生は準備・運営の役割を担い、小学生をサポートする。今年度は初の対抗戦形式で実施され、非常に盛り上がった。

東京大塚阿波踊り

地域の行事である東京大塚阿波踊りにも、小中学生が多数参加しています。地域全体で子どもたちを育てる場となっている。

③今後の取組みアイデアについて

令和7年度の学校テーマを「小中9年間を見据えた教育」とし、校内研修で教職員全員がアイデアを出し合った。

(活動のアイデア)

「小学校のクラブ活動との連携」「食育を通じた連携（給食の共通化、同じ話題での会話）」などを提案。

小中学校の連携に関しては、小学校の子どもたちが安心して中学校に入学できることを中心に考えることが重要であると強調。

(巣鴨小学校)

①西巣鴨中学校ブロックの特徴

子どもたちは幼稚園や保育園からの繋がりがあり、顔見知りの関係が非常に強いことが強み。小学校5・6年生になると、顔見知りの関係がさらに深まる。

②連携の現状と課題

低学年の交流は難しい面があるが、3年生でイケ・サンパーク（としまみどりの防災公園）での交流、4年生で体育的・総合的な活動での交流、5・6年生で環境問題などの共通テーマでの学習成果発表や討論などが今後できるといいと思う。

中学校で作成した作品展示を小学校で行うことも可能である。

③学習指導・生活指導の標準化

今後さらに推進すべきは、学習における規律や学習の流れ、生活指導における規範意識の共有である。区全体での学習の流れの共有も重要。

④施設整備面

交流を進める上で距離の問題はあるが、オンラインや施設整備（交流しやすい空間など）によって解決できる可能性がある。

(朋有小学校)

豊島区では各中学校に1人配置されており、西巣鴨中学校ブロックでは、3校とも同じ担当者である。スクールソーシャルワーカーは、学校外の時間でも家庭に入り込み、保護者と連携して家庭の悩みや行政・警察との連携など、多岐にわたる支援を行う。支援を同じ担当者が行うことで、小学校から中学校への円滑な移行支援、子どもたちの特性理解、特別支援学級からの移行支援などがスムーズに行われる。

○今後の期待

スクールカウンセラーも3校同じ担当者になれば、子どもたちの様子が3校で共有できるようになる。

また、地域行事や社会科見学などで、地域住民と協力して子どもたちを育していくことが重要である。池袋東口から大塚・新大塚までという広い地域の学校の子どもたちを、学校・地域・行政が一体となって育していく必要がある。

6.今後の取組に関する意見交換

西巣鴨中学校ブロックの地域として、小中連携教育を推進していくうえで、どのような取組および機能・場所が必要か

【委員意見】

- ・PTA 主催の小中水鉄砲大会の対抗戦形式が非常に盛り上がり、子どもたちの団結力が高まった。今回は学校混合でのチーム構成とし、さらなる交流に繋がったと考える。
- ・合同移動教室で、野球で繋がっていた巣鴨小学校と朋有小学校の子どもたちが団結していた。顔が見える対面交流が重要と考える。
- ・地域として、オンラインだけでなくオフラインでの交流の場を増やすべき。中学校進学時にスムーズな移行に繋がると思う。
- ・現在の地域での活動を加味したうえで、この延長線上で何が可能かという現実的な実現可能性を追求する必要がある。中学校が新たな場所へ移ることも考慮し、未来の姿から逆算して、どのような機能が求められるかを考えていきたい。
- ・地域社会と行政が協力し、既存のメニューにとらわれない新しい素晴らしいものと一緒に作っていくことが、今回の施設整備で重要だと思う。
- ・巣鴨小学校の施設が変わらないままにならないよう、予算的な支援やオンラインで繋がるためのスタジオ設置などの具体的な施策を検討すべき。
- ・子どもワークショップのような共同活動の場を保護者も参加・見学できる環境が必要と考える。公開授業のような形で、合同で何か取り組む授業展開の可能性を探っていきたい。
- ・ハード面だけでなく、連携強化のためのソフト面での具体的な取り組みが重要。
- ・子どもワークショップで出た具体的な意見は今回の計画にも取り入れていきたい。
- ・給食の多国籍メニューは運用面の問題だが、対応できる設備や体制を検討すべき。
- ・車椅子利用者に配慮した設備を施設計画で検討すべき。
- ・子どもワークショップの意見で上がっていた先生の休憩スペースは、子どもたちが先生の休憩まで気遣っていることに感銘を受けた。
- ・教室の中央にドアがあり、開放できるような構造にすることで、グループワークや授業展開の柔軟性を高めることができる。可動式の間仕切りも有効。
- ・生き物のいる池と階段のような、自然に触れる場所。
- ・技術・家庭科で様々な体験が安全にできる場所。このような体験が子どもの成長や物事への対処法に関わると考えている。
- ・小中連携教育の推進が最も重要なのは同感。子どもたちのアイデア（新しい小中学校の校舎の設備）を巣鴨小学校にも適用できるよう、予算的な問題はあるが検討してほしい。
- ・9年間の発達段階をどのように区分するのか等、各学校への具体的な指導方針を確認したい。現在の活動では、小学校高学年と中学校の連携に偏っており、小学校低学年からの9年間を通した視点があまり見えてこないと感じる。

→ (区回答)

9年間の発達段階の区分：まだ議論には至っていない

区全体での統一的な指導：

豊島区全体で一律に同じことを行うのではなく、各学校の実態、地域性、規模、学校間の距離などを考慮する必要がある。

連携教育について：

同じ中学校に進学する小学校が連携を深めることは非常に重要であり、小中学校だけでなく、小学校同士の連携も大切。

9年間を通じた学びの連続性を確保し、「中1ギャップ」のような学びの途切れがないようにすることが、今後の大きな課題である。

- 教員の交流についても、中学校の先生が小学校で専門教科を教えるなどの具体的な取り組みの可能性はあるのかどうか。

→ (区回答)

現在、教員が小学校と中学校をまたいで指導することは、任用発令が必要となるため、連携の範囲にとどまっており、具体的な指導までには至っていない。今後検討課題となる。

- 部活動連携について、小学校高学年が中学生を見て、中学生が社会人を見て学ぶような仕組み作りをしていきたい。
- 西巣鴨中学校・朋有小学校が専門性の高い教育やスポーツに特化した空間を提供し、巣鴨小学校が調理室の拡張等で文化に特化した教育を提供し、子どもたちが活動に応じて行き来して交流できるような施設づくりの可能性もある。

<事務連絡>

- 次回は、今回の意見を踏まえたいいくつかの施設配置案や、新しい施設に必要な設備などについて意見交換を行う予定。
- 池袋本町小学校と池袋中学校の観察を9月下旬に行う予定。日程は後日連絡する。

次回日程	9月下旬予定（別途お知らせいたします。）
------	----------------------